

## ～「R1JAなのはな米品質向上運動」実施中～ なのはな米1等比率95%以上を継続!

今年の水稲は平年より茎数が多く、コシヒカリの幼穂形成期 (幼穂長2mm) は7月9日頃と見込まれます。生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用で過剰着粒を防ぐとともに、水管理や防除を徹底して登熟向上に努めましょう。

### 1. コシヒカリの穂肥施用

#### (1) 肥効調節型基肥肥料による栽培の場合

出穂7日前 (7/22～24頃) に必ず葉色を確認し、**葉色が4.0 (砂壤土は4.2) 以下**の場合は、出穂までに追肥3号を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

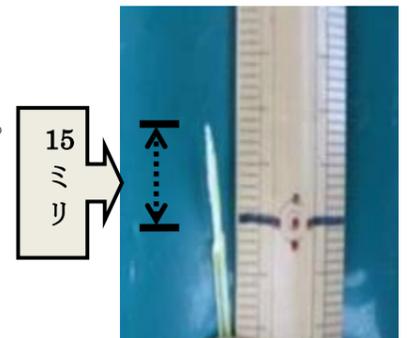
#### (2) 分施栽培の場合

- 1回目の穂肥 **幼穂長15mm (2mmを確認して8日頃)** に施用  
→ 葉色が濃く、草丈が長い場合は施用を控えましょう!
- 2回目の穂肥 1回目の7日後を目安に施用  
→ 登熟期の稲体活力維持のため、基準量を確実に施用しましょう。

表1 穂肥施用の目安 (分施の場合)

| 1回目穂肥施用時 (幼穂長15mm) の生育状況 |        |      | 1回目穂肥<br>7月17日頃 (※5/12田植え) | 2回目穂肥<br>(1回目穂肥の7日後) |
|--------------------------|--------|------|----------------------------|----------------------|
| 葉色                       | 草丈     | 稲の姿  |                            |                      |
| 3.6程度                    | 82cm未満 | スッキリ | 10kg/10a以内                 | 10～13kg/10a          |
| 4.0以上                    | 87cm以上 | メラメラ | 施用しない                      | 10kg/10a以内           |

肥料：追肥3号



1回目穂肥施用時の幼穂長

生育が目標値をやや上回る場合は、1回目の施用時期を2～3日遅らせ、施用量は7kg/10a程度としましょう。

### 2. 水管理

《幼穂形成期～出穂期まで》  
～飽水管理で根の活力を維持!～  
足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足に注意しましょう。



水を切らさない

《出穂期以降》  
～湛水管理で登熟を向上!～  
出穂期から20日間は湛水状態 (田面が出ない程度)を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



フェーン時は事前に入水を!



### 3. 病害虫防除

**斑点米カメムシ類が多発しています。確実に防除を行いましょう!!**

畦畔等の草刈りを励行するとともに、全品種2回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

表2 防除時期の目安

| 体系 | 防除時期               | 薬剤名              | 散布量        | てんたかく<br>(7/20出穂) | コシヒカリ<br>(7/31出穂) | てんこもり<br>(8/7出穂) |
|----|--------------------|------------------|------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 粉剤 | 穂揃期                | ビームキラップジョーカー粉剤DL | 3～4 kg/10a | 7/22～24           | 8/2～4             | 8/9～11           |
|    | 傾穂期<br>(1回目散布の7日後) | トレボンスター粉剤DL      | 3～4 kg/10a | 7/29～31           | 8/9～11            | 8/16～18          |
| 粒剤 | 出穂10日前頃            | フジワンラップ粒剤        | 4kg/10a    | 7/10頃             | 7/21頃             | 7/28頃            |

※各品種の田植時期はてんたかく:5/6頃、コシヒカリ:5/12頃、てんこもり:5/10頃で推定

《留意事項》

- ・田植日等により生育が異なります、防除前に必ずほ場の出穂状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。